

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271101893
法人名	社会福祉法人 ふるさと
事業所名	グループホーム ふるさと
訪問調査日	平成 21 年 1 月 15 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 12 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101893
法人名	社会福祉法人 ふるさと
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地 (電話番号)	長崎県西海市西海町川内郷1680番地 (電 話) 0959-32-2323

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成21年1月15日	評価確定日	平成21年3月12日

## 【情報提供票より】(平成 20年 12月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤 10人, 非常勤 4人, 常勤換算	14.5 人

### (2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(平成 20年 12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名
要介護3	5 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 71 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金森医院・たいら医院・真珠園療養所・大串歯科
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元の名産であるアコヤ貝をイメージした建物で、自然採光の工夫があり、全体的に明るく、清潔感があふれている。  
 管理者や職員は、法人の理念である「共助共援」のもとに「和」と「思いやりの気持ち」と理念を掲げ、支援にあたっている。  
 地域住民にホームを活用してもらえよう習字教室の場所を提供するなど、まさに地域に根ざした取り組みを行っており、利用者が住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らし続けられるよう、現状に満足することなく、職員間の共通理解を図りながら常にサービスの質の向上を目指して支援している。  
 また、職員は利用者へ寄り添いながら支援するだけでなく、家族等の思いにも寄り添い、本人と一緒に支える為に家族と同じ思いで支援していることを伝えている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果をもとに、ミーティングで事例を挙げ具体的な勉強会を行うなど、改善へ向けたさらなる取り組みを行っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は、評価の意義を十分に理解し、全職員で自己評価に取り組み、自己評価をもとにさらなるサービスの質の向上を目指した具体的な検討会を行っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は市との協議の上、3ヶ月に1回開催し、グループホームの役割、特徴等についても会議で話し合い、議事録も詳しくわかりやすく残している。出席者からの意見、提案事項については、ミーティング等において十分に話し合い、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関先に苦情窓口について掲示し、職員から親しみを持って話しかけ、家族等に何でも気軽に話してもらえよう雰囲気づくりを心がけている。家族からの意見、要望等については、職員間で話し合い、日々のケアに反映する仕組みを整えている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事等に利用者と一緒に参加するとともに、ホームの行事にも地域の方々にも多数参加してもらっている。地域ボランティアが行う月2回の書道教室のために場所を提供し、地域住民も参加している。地域交流記録帳があり、訪問者や内容等が細かく記録されていて、定期的な交流がごく自然な形で行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「共助共援」のもとに「和」と「思いやりの気持ち」という理念を掲げ、さらにユニットごとにA棟「丑年は一致団結ギューツとつまった和と思いやり」B棟「年始め感謝の気持ちを忘れずに」と今月の目標を立て、管理者と職員が一丸となって、現状に満足することなく、向上を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員更衣室入口の掲示板に、基本理念、職員の心構え等を掲示し、日々のケア実践の中で機会あるごとに確認し合い、理念の共有、具体化に努めている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等に利用者と一緒に参加するとともに、ホームの行事にも地域の方々にも多数参加してもらっている。地域ボランティアが行う月2回の書道教室のために場所を提供し、地域住民も参加している。地域交流記録帳があり、訪問者や内容等が細かく記録されていて、定期的な交流がごく自然な形で行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を十分に理解し、全職員で自己評価に取り組み、自己評価をもとにさらなるサービスの質の向上をめざした具体的な検討会を行っている。また、外部評価の結果をもとに、ミーティングで事例を上げ具体的な勉強会や、改善へ向けたさらなる取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回開催している。議事録には、詳しく分かりやすく記録しており、グループホームの役割、特徴等についても会議の中で話し合っている。出席者からの意見、提案事項については、ミーティング等において十分な話し合いを行い、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		

長崎県 グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと定期的に情報交換を行っている。また、管理者は、地域密着型サービス事業所連絡会議の世話人として、市担当者とも連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回、広報新聞と担当者のコメントを添えた写真レターを送付し、家族へ報告している。金銭出納帳については、毎月送付し、状況報告を行っている。家族の面会時にも利用者の近況報告を必ず行っている。また、職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に家族と同じ思いで支援していることを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にサービス概要、苦情窓口の掲示をしておき、家族には、職員から親しみを持って話しかけ、何でも気軽に話してもらえるような雰囲気づくりを心がけている。家族からの意見、要望等はミーティング等で話し合い、日々のケアに反映する仕組みを整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築く為にも担当職員を決め、馴染みの職員によるケアを心がけている。やむを得ない職員異動や退職の際は、利用者や家族に不安や不満を抱かせないように、きちんとした説明を行い、職員の引き継ぎの工夫に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実務年数、能力に合わせ計画的に研修に参加できるようにしている。研修参加者は、研修報告書を管理者へ提出するとともに、全職員に閲覧し、研修内容の共有ができるようにしている。また、定例勉強会でも報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や福祉連絡協議会が開催する研修会や行事へ参加することにより、意見や情報交換などを行っている。また、地域密着型サービス事業所と市で構成する連絡協議会が新たに発足しており、地域密着型サービスに特化した情報交換や勉強会が期待できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらうことから始め、雰囲気を感じてもらおうようにしている。また、家族の面会回数を多くしてもらったり、希望に応じて一緒に宿泊できるようにしたりしながら、本人がホームの生活に安心感を持って馴染めるように努めている。本人、家族の希望があれば、外出、外泊もいつでも相談に応じている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が介護されるという一方的な立場になり、「してもらっている」「申し訳ない」という気持ちにならないように、接し方を心がけるよう職員教育を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。また、利用者の言葉や表情などからその真意を推し量り、それとなく確認するようにしている。意思表示ができない利用者に対しては、家族等より情報を得ながら、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の全職員会議の中で、一人ひとりのケアカンファレンスを行い、全職員で意見交換をし、より具体的な介護計画書を作成している。利用者や家族には、関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは2～3ヶ月に1回行われ、状態変化や家族、利用者の希望等に応じた見直しも随時行っている。意見交換記録やカンファレンスも記録して残してある。職員は、介護計画に基づいてケアをしており、モニタリングとして毎日記録をしている。利用者との関わりの中での気づきや意見は申し送り帳へ記載し、随時検討し、介護計画にも反映するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や、お盆、お彼岸のお寺参りやお墓参りの送迎など、必要に応じて柔軟な対応をしている。また、医療連携体制を整え、医療面においても柔軟な対応ができるようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に本人、家族と話し合いを行い、基本的にはこれまでのかかりつけ医を受診できるように支援している。通院については、家族と相談しながら、通院介助、訪問診療等柔軟に対応している。利用者が、かかりつけ医を協力医療機関に変更するよう希望する場合は、確実に意向の確認を行っている。また、緊急時にも対応してもらえる体制づくりができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居手続きの際、利用者及び家族等の意向を確認しており、できる限り意向に添った対応に努めている。これまでに、何例か終末期の利用者の看取りを行っており、今後も引き続き支援に努め、さらに充実した取り組みを期待したい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応など利用者のプライドやプライバシーに配慮した対応が見受けられる。また、個人情報の漏洩防止、守秘義務、秘密保持の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしておらず、利用者の体調に配慮しながら、個々の意思を尊重して、起床や食事の時間も柔軟に対応し、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。生活リズムやペースについて、特に観察が必要な利用者に対しては、睡眠リズムの記録をつけている。		

長崎県 グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れながら、食材の買い出しや家庭菜園の野菜収穫、調理、配膳、片付けなど利用者とともに、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるように雰囲気づくりを大切にしている。また、ワンプレートミールにしてみたり、行事の際に好評の押し寿司を作ったりするほか、地元の食堂に外食に出かけることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午前、午後と時間を問わず、利用者の好きな時間に入浴できるよう支援体制ができています。また、一人ひとりの希望や習慣に合わせた支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園、書道、生け花、料理、絵画、掃除等、利用者の趣味や生活歴、得意分野を活かした役割、活動に楽しみを持てるよう、利用者と話しながら支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の立地上、徒歩による外出が困難な為、天気や利用者の気分、希望に応じて、できるだけ外気に触れる機会を持ち、心身の活性につながるよう、周辺の散歩や買い物兼ねたドライブ等への外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠することはなく、職員全員で見守りを徹底し、利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めることなく、さりげなく声をかけたり、同行する等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	天候を見ながら、月1回の避難訓練や通報訓練を実施し、実施記録を残している。地元消防団との避難訓練や、地域役員を交えた「防火・防災懇談」も実施しており、利用者の行方不明時の捜索等の協力を依頼している。また、今年中に、スプリンクラーを設置予定である。		

長崎県 グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設の管理栄養士が作成し、栄養バランスなどについて専門家の視点で配慮されている。地域住民からの差し入れがあった場合には、メニューを変更したり、一品追加したりしている。食事や水分摂取量もチェックし記録している。また、食事形態も利用者に合わせた物を提供し、一人ひとりに合わせた食事の支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体に自然採光の工夫があり、明るく、清潔感があり、窓から外の景色が見渡せるようになっており、威圧感のない空間が広がっている。共用空間には、季節に合わせた利用者の作品やスナップ写真などが飾られたり、廊下のあちらこちらにベンチを配置したりして、それぞれに過ごしやすい空間づくりをしている。また、広い中庭には犬と触れ合えるスペースがあり、暖かい日には昼食やレクレーションに有効利用したり、プランターに季節の野菜や花を栽培したりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビ、ベッドを事業所で用意しているが、本人や家族の意向の確認しながら、仏壇や使い慣れた日用品、写真等を自宅から持ち込み、その人らしく過ごせる居心地のよい空間づくりに配慮している。		